

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-64674

⑤ Int. Cl.⁴
A 61 N 5/06識別記号 庁内整理番号
E-7831-4C

④ 公開 昭和64年(1989)3月10日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 半導体レーザー医療装置

⑯ 特 願 昭62-223434

⑰ 出 願 昭62(1987)9月7日

⑱ 発 明 者 北 島 正 和 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内
⑲ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
⑳ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1、発明の名称

半導体レーザー医療装置

2、特許請求の範囲

複数個の半導体レーザーと、前記半導体レーザーの出力光を集束させるレンズと、前記半導体レーザー及び前記レンズを固定する基台と、前記基台に接合し前記半導体レーザーの出力光の外周を覆うキャップと、前記キャップの端部に設けて前記レンズからの距離を可変とする焦点位置可変部材とを備えた半導体レーザー医療装置。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は複数個の半導体レーザーを用いて、肩こりなどの疼痛を緩解する目的に利用する半導体レーザー医療装置に関するものである。

従来の技術

半導体レーザーを応用した医療装置として、肩こりなどの疼痛患部、いわゆるツボに数分間レーザー光線を照射することによって治療することが最近、

実用化をみるに至っている。またこの半導体レーザーを複数個持ち各レーザー光線を集束させ、レーザー光線の照射面積を数mmに焦れば、単位面積当りのパワー密度は非常に大きくなり、治療効果も増大する。このように疼痛緩解装置として半導体レーザーの特性を生かしている。しかしこのレーザー光線はもし目に入れば、目の中の網膜を破壊する恐れがあり、第6図に示す従来例のようにタッチセンサ10を併設して、皮膚に触れたときだけ、照射するしくみに改良されている。

従来例を第6図～第8図をもって説明する。

装置は、第6図に示すように、制御本体8とレーザー光線照射プローブ9とを備え、このレーザー光線照射プローブ9先端孔にはタッチセンサ10が併設されている。レーザー光線は、このレーザー光線照射プローブ9先端孔より数mm離れたポイントで集光されている。

このレーザー光線の集光構造は、第7図に示すように半導体レーザー1よりレーザー光線が発射され、ドラムレンズ2等で平行光にし、集光レンズ11

で集光する構成、もしくは第 8 図に示すように、半導体レーザ 1 を集光ポイントに合わせ斜め取り付けをし、集光する構成等がある。

発明が解決しようとする問題点

ここで半導体レーザ医療装置で肩こり等の疼痛緩解、また手足の機能回復に役立てるには、レーザ光線を膚にどのように照射するかが大きなポイントとなり、従来から数 mm 皮膚内に複数レーザ光線の焦点をとることがもっとも効果的とされている。

しかし肩こり等の疼痛は、個人差が大きく定められた焦点位置では、その効果が充分に発揮できないかまたは治療時間を長くなってしまふという問題点を有していた。

そこで本発明はレーザ光線の焦点位置を可変とすることによって効果的な焦点位置を得ることを目的とする。

問題点を解決するための手段

この問題点を解決するために、本発明は半導体レーザの出力光を集束させるレンズからの距離を

可変とする焦点位置可変部材をキャップに設けたものである。

作 用

本発明は上記構成とすることにより、装置本体から焦点位置までの距離を実質的に変更することができるので効果的な焦点位置を得ることができる。

実 施 例

本発明の一実施例を第 1 図～第 5 図に示す。従来例と同一機能を有する部材には同一番号を付して説明を省略する。

第 1 図～第 3 図に示すように筒状の焦点位置可変部材 4 は、キャップ 6 の先端に設けられ、可変レバー 5 によって半導体レーザ 1 からの距離を変えられるように構成されている。7 は人体の皮膚である。

また第 2 の実施例として第 4 図、第 5 図に示すようにネジ構造によって焦点位置可変部材 4 をキャップ 6 に設けてもよい。この第 2 の実施例によれば焦点位置の微調整が可能になる。なお上記実

施例では焦点位置可変部材 4 をキャップ 6 の先端に設けた構成を示したが、基台 3 とキャップ 6 との間に設けたもの、あるいはキャップ 6 の中間部に設けたものであってもよい。

発明の効果

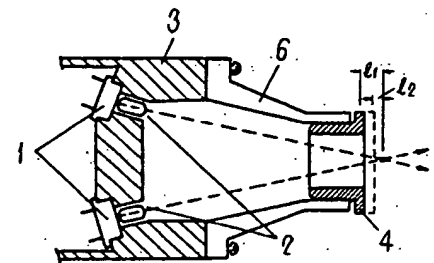
以上説明から明らかなように本発明の半導体レーザ医療装置は、従来技術で解決し得なかった疼痛の個人差に柔軟に対応し、緩解効果を増大させるとともに、治療時間を短縮することを可能とする効果を奏するものである。

4、図面の簡単な説明

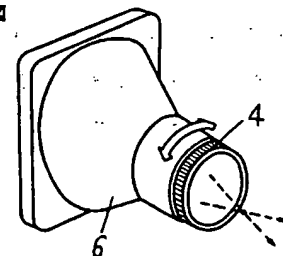
第 1 図は本発明の一実施例による半導体レーザ医療装置の要部断面図、第 2 図は同要部斜視図、第 3 図は同装置の説明図、第 4 図は他の実施例による要部断面図、第 5 図は同要部斜視図、第 6 図は半導体レーザ医療装置の斜視図、第 7 図は従来例の半導体レーザ医療装置の要部断面図、第 8 図は他の従来例による要部断面図である。

1 ……半導体レーザ、2 ……レンズ、3 ……基台、4 ……焦点位置可変部材、6 ……キャップ。

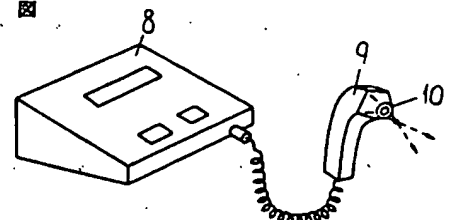
第 4 図



第 5 図

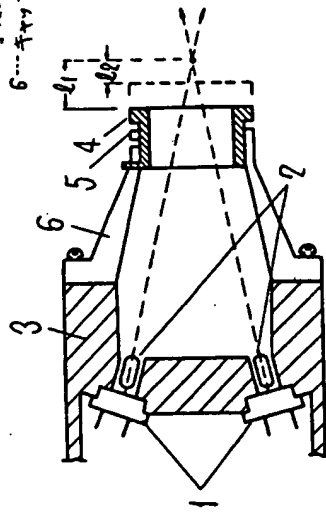


第 6 図

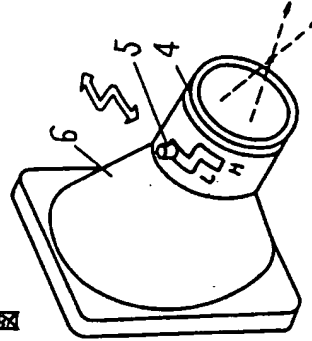


1...半導体レーザー
2...レンズ
3...基台
4...焦点位置可変部材
5...可変レバー
6...キャップ

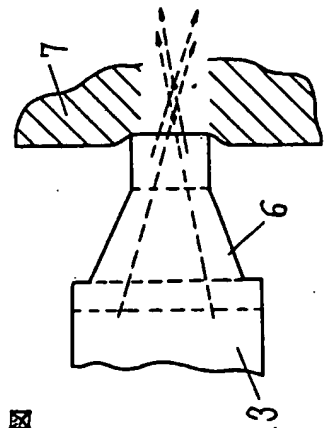
第 1 図



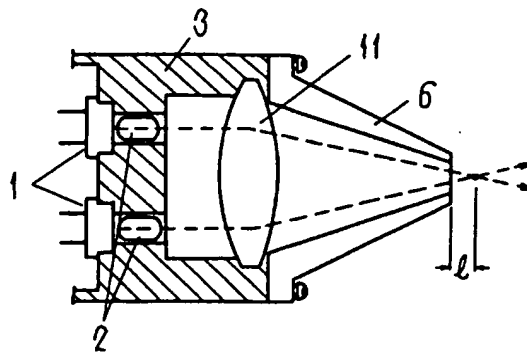
第 2 図



第 3 図



第 7 図



第 8 図

